



2014年5月8日

各位

会社名 住友重機械工業株式会社  
代表者名 代表取締役社長 別川 俊介  
(コード番号 6302 東証第一部)  
問合せ先 コーポレート・コミュニケーション部長  
佐藤 常芳  
(TEL. 03-6737-2333)

## 「中期経営計画2016」について

当社は、2014年度を初年度とする3ヵ年の「中期経営計画2016」を策定しましたので、その概要をお知らせいたします。

2011年度からスタートした前中期経営計画「イノベーション21」は東日本大震災、欧州債務危機、中国経済の減速などの影響から、当初の財務目標（2013年度に売上高7,300億円、営業利益730億円）を達成することはできませんでした。しかしながら、基本コンセプトである「グローバル化」と「イノベーション」はいかなる経済環境下でも有効であるとの考えのもと、海外工場の新設及び拡張、買収した海外子会社との連携強化、設計革新活動及び新商品の投入を着実に実行してまいりました。

これらの施策を成果として結実させるべく、当社グループは新たな中期経営計画「中期経営計画2016」を策定いたしました。

### 記

#### 1. 「中期経営計画2016」の目標

財務数値目標として2016年度において以下の達成を目指します。

- ① 2016年度 売上高 7,000億円
- ② " 営業利益率 7.5%

なお、ROICを引き続き住友重機械グループの経営指標とし、 $ROIC > WACC$ を継続するとともに、ROIC 7%以上の確保を目指します。

#### 2. 「中期経営計画2016」経営戦略

上記の財務目標達成のため、(1) 持続的成長の基盤を構築するための「着実な成長」、(2) 「高収益への反転」、(3) 「たゆみなき業務品質改善」を計画の目的に掲げ、「一流商品を提供し続ける企業」を目指します。単なる成長ではなく、高収益へ向けた反転を実行すべく、足元を固め、着実な成長を達成することが大きなポイントとなります。

また、「中期経営計画2016」では、多様な顧客ニーズに幅広い事業で応える当社グループの広範囲な事業領域の中でも、特に需要が拡大するエネルギー関連分野を成長領域と定め、同分野への積極的展開を図ってまいります。

計画遂行過程においては、引き続き、財務規律を維持しつつ、強化された財務体質を活かして成長に向けての投資を積極的に行い、具体的には3年間で約950億円の設備投資、開発投資を実施する計画です。

#### (1) 持続的成長の基盤を構築するための「着実な成長」

「グローバル化（拡がる）」、「イノベーション（変わる）」、「グループ内の連携シナジー（つながる）」を三つの柱として当社グループは成長を目指します。

「グローバル化（拡がる）」では、前中期経営計画「イノベーション21」に基づいて行った投資を成果につなげるシナリオを構築し、それを実現いたします。また、技術差別化を進め、海外市場でのプレゼンスを高めます。

「イノベーション（変わる）」では、グループ共通の課題として、アフターマーケット・ビジネスの強化、営業プロセスの変革及び新商品の開発に注力してまいります。また、量産機械系事業では変減速機事業の競争力の強化を、重機械系事業ではエンジニアリングの強化をそれぞれ狙いとするイノベーション活動を推進してまいります。

「グループ内の連携シナジー（つながる）」では、多岐にわたる製品を抱える当社グループ内において、システム技術の中核とした連携シナジーを強化し、顧客価値向上を目指します。また、組織再編によるシナジー効果の実現も追求いたします。

#### (2) 「高収益への反転」

変減速機、プラスチック加工機械などの当社グループをリードする事業においては、売上高利益率10%程度の高い目標を設定し、高収益の実現を目指します。また、すべての事業部門、機種、地域において自立を図り、売上高利益率5%以上を目標とした高収益への反転を目指します。

### 3. 配当の考え方

2014年度から3ヵ年の配当性向の目標を30%といたします。

※注 ROICは投下資本税引後利益率であり、投下資本（株主資本と有利子負債の合計金額）に対してどれだけ利益を出しているか、資本のコストに見合う収益性があるかを示す指標です。WACCは加重平均投下資本コストであり、株主資本コストと有利子負債にかかるコストを示します。

以上